

# CASBEE<sup>®</sup>新潟 | 評価結果



使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版  
 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

## 1. 建物概要

建物名称 (仮称)新潟総合警備保障(株) 建設地 東区 小金町1丁目38番34号、47番4号 用途地域 第一種住居地域 建物用途 事務所, 工場, 竣工年 2013年11月 予定 敷地面積 2,880.17 m <sup>2</sup> 建築面積 695.20 m <sup>2</sup> 延床面積 2,564.30 m <sup>2</sup> 階数 地上3F 構造 S造 評価の段階 実施設計段階評価 評価の実施日 2013年3月8日	<p>新潟総合警備保障株式会社 第三分館 新築工事</p>
---	-------------------------------

## 2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{39}{30} = 1.3$
S: A: B+: B: C:		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.5		バリアフリー	3.0
			維持管理	4.0
			更新性	3.4
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.1		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.2
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.7		節水	4.0
			リサイクル材の使用	5.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.5		生物環境の保全・創出	1.0
			敷地内温熱環境の向上	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	2.0		まちなみ・景観への配慮	2.0
			地域性への配慮, 快適性の向上	2.0

## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

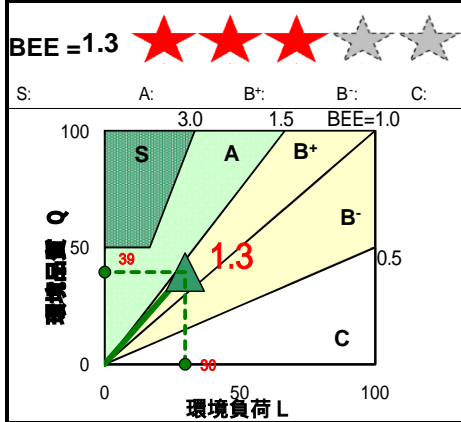
1. 主要配管3種以上の中の2種以上にB以上、Eは未使用)
2. 非常用自家発電機有、キュービクルを地上階に設置
3. 条例を遵守
4. 外皮に断熱材を施工し、熱負荷を抑制
5. 水栓及び便器は節水仕様、仕上と躯体の分別は用意とした計画

# CASBEE<sup>®</sup>新潟

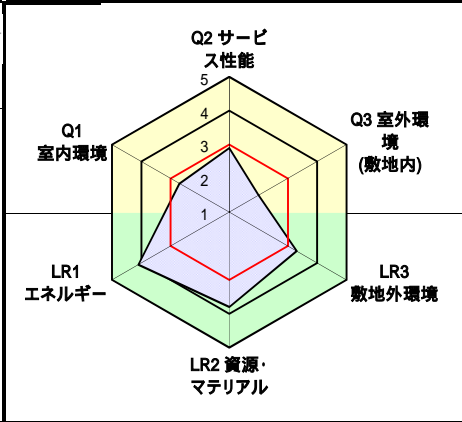
## 評価結果内訳

使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

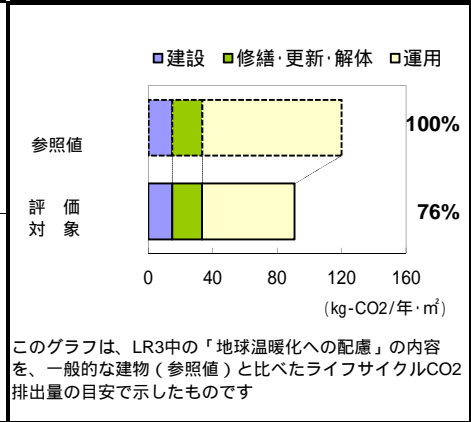
### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



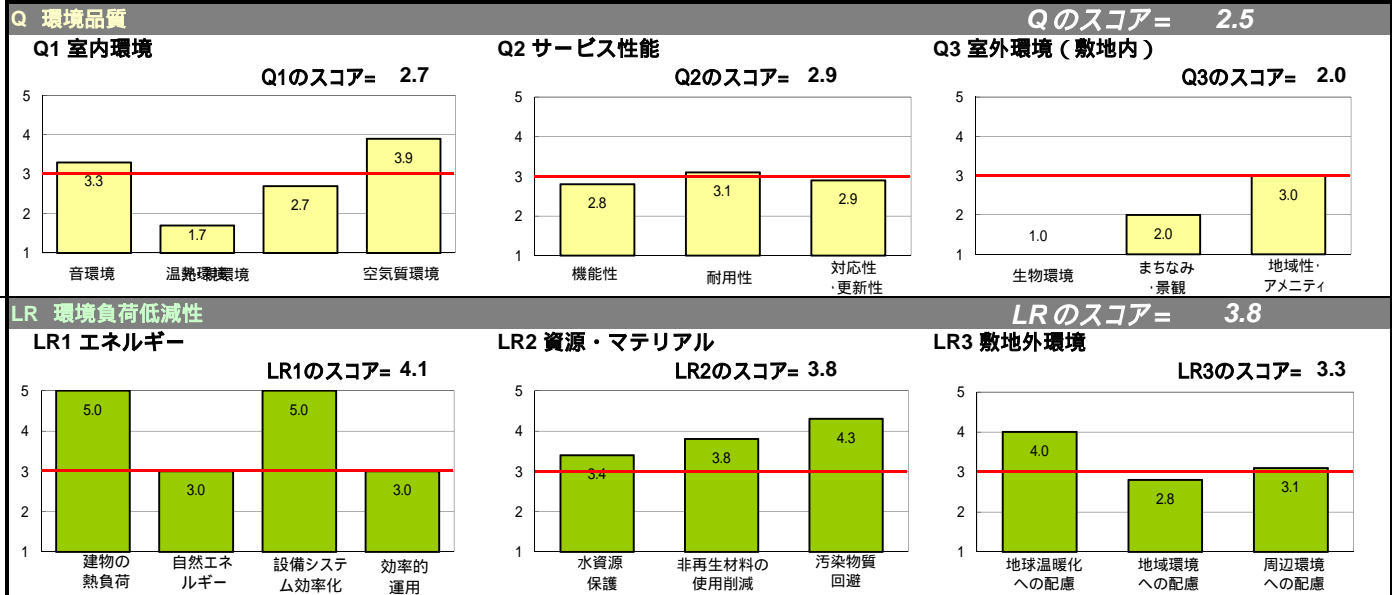
### 2-2 大項目の評価(レーダーチャート)



### 2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)



### 2-4 中項目の評価(バーチャート)



### 2-5 設計上の配慮事項

<b>総合</b> 事務所として適した空間を目指し、内部利用者が日常の業務に支障を来たさぬ様配慮した計画とする。断熱材による建物の熱負荷の抑制、高効率設備機器を導入し、建物の省エネルギーを図る。敷地内に緑地を施し、温熱環境向上を図っている。		<b>その他</b>
<b>Q1 室内環境</b> 外皮に対してALC、屋根には断熱材を施工し、建物の熱的負荷の抑制を図る。室内空気質を健全に保っている(内装材にF を使用、喫煙室を設ける)	<b>Q2 サービス性能</b> 内装材、配管材には耐用年数の長いものを選定し、長寿命化を図る。非常用発電設備を設置し、地震や災害時の際の機能の維持を行う。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> まちなみに対して圧迫感を与えぬよう、色彩や配置に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> 外皮に対してALC、屋根には断熱材を施工し、建物の熱的負荷の緩和を図る。省エネルギー性に配慮した設備機器の導入。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 仕上げと設備の分別が容易な計画とする(リサイクルの促進)ハロン消火剤の使用を避け、断熱材をノンフロンタイプとし、地球温暖化抑制について配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 省エネルギー性に配慮した設備機器の導入により、運用時の際のLCCO <sub>2</sub> 排出量低減を図っている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される